

2021年度 学校関係者評価 報告

1. 学校関係者評価の概要

1) 基本方針

実践的な職業教育の質を担保するため、自己点検・自己評価の結果について、客観性を高めるとともに、保護者、その他の関係者（教職員を除く）による評価を通して、継続的に教育活動及び学校運営の向上を図る。

2) 評価結果の活用方法

年1回開催される学校関係者評価委員会において、自己点検・自己評価の結果について説明を行い、委員からの評価、意見を求める。委員からの評価を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努める。改善点や課題について学校運営会議で報告する。改善を必要とする項目について8月以降、副学校長が対応を検討し必要時、教務会議で決定し実施する。

2. 学校関係者評価委員

古賀 徳之	社会医療法人 製鉄記念八幡病院 病院長
杉本 美由紀	社会医療法人 製鉄記念八幡病院 副看護部長(教育担当)
村山 由起子	製鉄記念八幡看護専門学校 同窓会 若竹会会長
中村 真由美	製鉄記念八幡看護専門学校 学校後援会会長

3. 開催日 2022年6月6日(月)

本年度の学校関係者評価は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面をもって意見交換及び質疑・応答を行った。

4. 学校関係者評価 報告

1) 自己点検・自己評価項目及び結果(3.0満点)まとめ別紙

I 教育理念	3
II 教育目標	3
III 教育課程経営	2.8
IV 教授・評価過程	2.88
V 経営・管理過程	2.75
VI 入学	2.5
VII 卒業・就業・進学	2.5
VIII 地域社会・国際交流	2.3
IX 研究	1.6

2) 意見

- コロナ禍の中での教育活動はとても大変だったと思います。特に3年生は国家試験に向けての学習で直前、登校できない期間が長くありましたが、毎日オンラインでのHRなどがあり、最後まで見守って頂いたことでとても心強かったようです。友人たちと大変ながらもとても楽しく3年間過ごせたと言っていました。無事、卒業し国家試験も全員が合格できこれから先も製鉄記念八幡病院に就職した仲間と頑張ってくれることを期待しています。
- 授業評価を教科毎に行い、評価に応じて講師側、学生側ともに対策や検討を行っておられ、効果的な授業設計に取り組まれていると思います。
- 卒後、数年間の離職率が高いことに着目し、在学中から社会人基礎力の育成に取り組まれていること、卒後も学校教員のサポート体制が同じ施設内で行える環境であることは、卒業生にとって良い環境であると思われまます。

3) 質疑・応答

○授業評価で、講師の思いや考えが学生に伝わっていない場合、意図や目的が伝わるように対応されているとありますが、具体的にどのような形で行われていますか。

→学生は講義終了後、授業評価を行い、授業内容や授業方法他を5段階で評価しています。際立って低い評価であった場合や自由記載において不満が記載されている場合、詳細の状況を学生へ確認します。そこで、学生の方に理解できていない状況があれば、講師の意図を伝えるようにしています。逆に講師へ伝えた方がよい内容であれば、学生の意見として具体的に講師へ伝えるようにしています。

○新型コロナウイルス感染の影響で臨地実習時間が例年よりかなり短くなっていますが、学内実習ではどのように補ったのでしょうか。

→对患者での看護実践は行えない分、『病態理解』や『アセスメント』に重点を置いた実習を行いました。場面がイメージしやすいように各領域実習で視覚教材を工夫しました。拡大時期は自宅でのオンライン実習を行いました。臨床で行う実習とは違い、やはり緊張感も違い、実際の体験からの学びは得にくいと痛感しています。今後は可能な限り実習病院と連携して、学内実習の場合も臨地実習指導者にカンファレンスに参加してもらったり、臨床講義を学内もしくはオンラインでも行ってもらい、少しでも臨床現場に近い学びができるよう工夫していきます。

○研究について、他よりも評価が大幅に低いのは？

→昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染の拡大により教育活動の変更を余儀なくされ、対応に追われていました。毎年、実践報告若しくは研究授業を1例行っていたのですが、2015年にKOMIケア理論を導入するにあたりKOMIケア理論の学習、教育体制作りに重点をおいてきたこと、ここ数年は新カリキュラムに向けた準備もあり実践報告や研究授業にも着手できていませんでした。今後、以前のように実践報告等を計画的に行っていくようにしたいと考えています。

○受験生の確保について新たな取り組みはありますか。

→高校訪問により実際の受験生の状況を確認しています。受験生が望んでいることや高校の要望を聞いて、指定校推薦枠の柔軟な変更や進路ガイダンスの強化、母体病院の広報担当職員の協力のもと広報活動の強化をしていきます。大分県方面の高校へ広報活動を広げる予定です。同窓会 若竹会を通じて情報発信することも受験生の確保につながると考えています。法人の職員、同窓会会員への協力依頼も強化していきます。